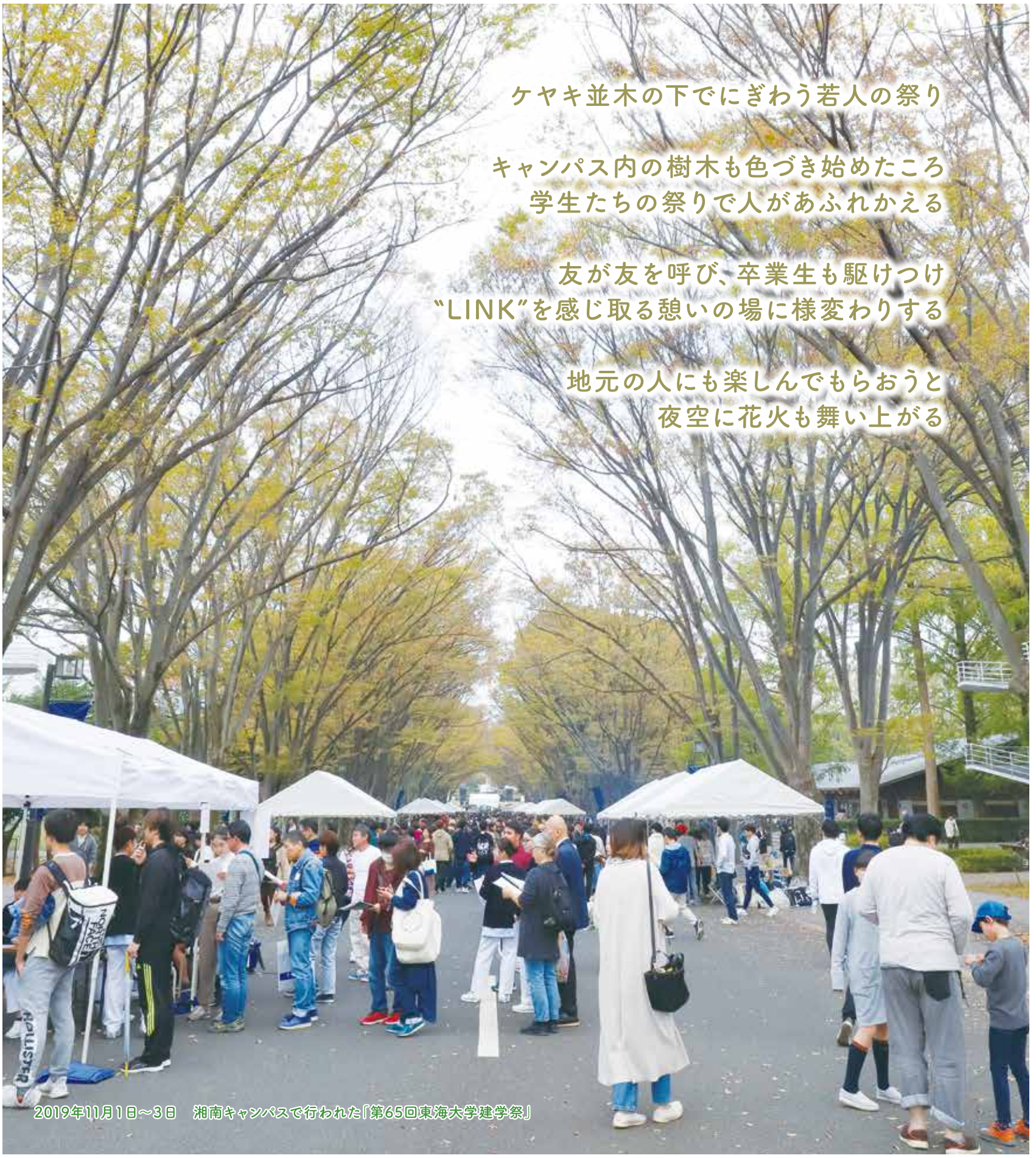
ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。　Chi·e·n



ケヤキ並木の下でにぎわう若人の祭り

キャンパス内の樹木も色づき始めたころ
学生たちの祭りで人があふれかえる

友が友を呼び、卒業生も駆けつけ
〝LINK〞を感じ取る憩いの場に様変わりする

地元の人にも楽しんでもらおうと
夜空に花火も舞い上がる

2019年11月1日～3日　湘南キャンパスで行われた「第65回東海大学建学祭」

02-03
第11回〝ちえん〞をつくる人々
2019年度東海大学連合後援会研究助成金 地域連携部門
「地域における映像資料の活用に関する実践的研究ー
『学前ローカルイメージラボと夕暮れ映像祭の企画運営』」

06-07
つかのはら通信
大学と地域の連携活動をご紹介

International students' げしゅくLife
留学生同士のコミュニティーで困難を乗り越える！　夢は日本永住

学生4コマ漫画 I・MA・DO・KI
第11回 「広い」

04-05
地まつり探訪記
＃03 「東海大学同窓会ホームカミングデー」

大学から地域へ
教職員による地域貢献

08
学びたいときが、まなびどき　生涯学習講座　Vol.3
「気象予報士によるお天気講座」

Information

TAKE FREE
January 2020 Vol.11

東海大学地域連携紙「ちえん」（湘南版）Vol.11
発行日／2020年1月15日
発　行／東海大学地域連携センター
後　援／平塚市、秦野市、伊勢原市

昨年12月に開催された「夕暮れ映像祭2019」トークセッション「戦争と子ども」の様子

映像を通して、戦争の記憶を追体験 “次の世代”にどう伝えるか

第11回　“ちえん”をつくる人々
2019年度東海大学連合後援会研究助成金
地域連携部門

「地域における映像資料の活用に関する実践的研究－
『学前ローカルイメージラボと夕暮れ映像祭の企画運営』」

映像を通して、戦争の記憶を後世へ伝える――昨年12月初旬、小田急線・東海大学前駅南口のタウンニュースホールで、計4日間にわたって「夕暮れ映像祭2019」が開かれた。「ここではないどこかと、映像でつながる」をコンセプトに、文化社会学部広報メディア学科の水島久光教授のゼミ生が「学前ローカルイメージラボ」を企画。地域住民を招いてさまざまなテーマの映像作品を上映したほか、関係者とのトークセッションやシンポジウムも行われた。プログラムの中の一つ「戦争と子ども」では、平和都市を宣言している神奈川県伊勢原市との連携事業も紹介した。関係する三者に話を聞いた。

調査資料をデータベース化し、議論するための素材をつくる

私はこれまで15年にわたって、映像を介して地域の課題と向き合う方法の開発をテーマに研究を続けてきました。湘南キャンパス近隣の平塚市や伊勢原市をはじめ、財政破綻した北海道夕張市や、東日本大震災で津波の被害にあった東北の町、第二次世界大戦で原爆が投下された広島・長崎――このほかにも多くの都市に残る資料を収集しています。

今回、東海大学連合後援会研究助成金の採択を受けている研究課題では、これまで集めた資料のデータベース化と、それらを活用した「地域連携研究会」の開催、そのフラッグシップ・イベントとして「夕暮れ映像祭」を行うことが３本柱になっています。タウンニュースホールで開いた「夕暮れ映像祭」では日替わりのテーマを設け、関係者を招いたトークセッションも行いました。その中の一つが、「伊勢原被爆者の会」副会長の小渕義信さんを招いた３日目の「戦争と子ども」です。

「夕暮れ映像祭2019」トークセッションの様子

私の研究室では、「平和都市」を宣言している伊勢原市の取り組みに2014年から協力しています。戦後70年を迎えたタイミングに、戦争の記憶を記録として残すことを目指して学生が市内に住む戦争体験者10名にインタビューしたほか、市が若年層の平和意識を啓発するために構成している「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」のサポートと撮影を行ってきました。小渕さんには、18年と19年に行った伊勢原被爆者の会への取材でご協力いただき、研究室で主催した講演会に登壇していただいたこともあります。

私たちは学校教育やメディアを通じて戦争を「情報」としては知っているけれど、小渕さんのように実際に経験した人の話はその何倍もの価値があります。学生によるインタビューは、市の図書館で８名分の映像を見ることができます。また「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」は、これまで学生が担当してきた撮影・編集を中学生にレクチャーして引き継ぐ段階まできています。そうした活動を形にして「はい、終わり」ではなく、戦争について語り継ぐコミュニケーションの素材にしてもらいたい。そうした議論の場をつくることも、我々の役割だと考えています。

東海大学文化社会学部広報メディア学科　水島久光教授

生徒や学生の成長を実感　映像や写真をどう生かすかが課題

「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」平和記念資料館前にて

被爆樹木を見学する生徒たち

伊勢原市役所市民生活部市民協働課主事　田中亜瑠葉さん

水島先生の研究室との連携事業には、私が市役所に入った年からずっと携わっています。インタビューした戦争体験者の方々が「最近どうされているかな」と思っていたら、ほかの職員から「亡くなったらしいよ」と聞いて……そのとき、生きていてくださるうちに語り継ぐ大切さを感じました。

毎年８月５、６日に行っている「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」には何度か同行していますが、戦争体験者に話を聞き、大学生と一緒に行動することで、中学校の生徒たち一人ひとりの成長を感じています。行きと帰りで顔つきが全く違うんです。現地で感じた“重み”を、しっかりと受け止めているのだと思います。学生さんも、取材の中でショッキングな話を聞いても、受け止めて理解して映像に残している。素直に「すごいな」と感じています。

この事業は元々、伊勢原市が「戦争体験者の声を残そう」と考えて始めました。最初は「市だけでそんなことができるのか」と頭を抱えていたのですが、水島先生にご協力いただいたことで現在の形になりました。クオリティーの高い映像を作ってくださるのはもちろん、インタビューした10名の共通点を紐解いていき、「当時の日本は、伊勢原はこうだった」と彷彿とさせるような作品になっています。私自身もこの取り組みを通じて、戦争を追体験する機会になりました。

戦争体験者が徐々に減っていく中で、いつまでお話を聞く機会を設けられるかが課題です。これまで撮影した映像や戦時中の物品の写真を、どのように生かしていくか、今後も考えていきたいと思います。

経験した人にしか伝えられない話がある

伊勢原被爆者の会副会長　小渕義信さん

被爆体験について初めて公の場で話したのは10年ほど前、ある中学校での講演会でした。それまでは語り継ぐことにあまり意味を感じていなかったのですが、講演後に生徒が書いたアンケートを読むと、想像以上によく理解してくれていると感じました。対面で経験談を話し、質問に答えることは決して無駄ではないと思い、講演の依頼があれば出向くようになりました。

戦争を経験した人は、間もなく死に絶えていなくなるときを迎えようとしています。その後どのように語り継いでいくかを考え、私は次の世代を担う中高生に伝えたいと考えました。現在の学校教育の中で、平和教育をどの程度教えているかを考えると、今の内容では不十分だと思うんです。歴史の授業も、縄文時代や室町時代についてはじっくり勉強するにもかかわらず、ごく最近起きた第一次世界大戦以降の歴史は十分に教わらないですよね。国として、もっと教える内容を充実させてほしいと切に思います。

私自身、より広範囲に平和の問題を考えようと、定年後はさまざまな国を渡り歩きました。ドイツでアンネ・フランクの足跡をたどってみたり、アウシュヴィッツ＝ビルケナウ収容所や、ベルリンの壁を見に行ったり……元国境警備隊のドイツ人に案内してもらい、とても勉強になりました。

大地震や津波などの自然災害でもそうですが、戦争や原爆は、実際に被害にあった人にしか伝えられない話があります。そして、それにまつわる資料を読んだり聞いたりして知識を深めていけば、さらに研究するきっかけにもなるでしょう。私の話が微力でも役に立てるのであれば、これからも協力していきたいと考えています。

「中学生ヒロシマ平和の旅」に参加した生徒とトークセッション

映像や資料で地域の歴史に触れる「夕暮れ映像祭2019」

水島教授とゼミの学生たちが企画した「夕暮れ映像祭2019」は、12月2、3、5、6日に小田急線・東海大学前駅南口のタウンニュースホールで開かれました。戦争や震災にかかわる映画を上映したほか、「まちづくりとアーカイブ」「ダムと生活」「戦争と子ども」「記憶を未来につなぐ」の4テーマでトークセッションも実施。さらに、地域紙「タウンニュース」の平塚、秦野、伊勢原各市版の記事を振り返る「ピックアップ湘南」、湘南キャンパス近辺を撮影した過去と現在の写真を見比べる「学前今昔」といったワークショップも行い、地域の魅力や歴史を掘り下げました。

地まつり探訪記

#03
「東海大学同窓会ホームカミングデー」

このコーナーでは、東海大生が地域のお祭りやイベントなどで活躍している様子を紹介していきます。「東海大学同窓会ホームカミングデー」は、（学園祭）期間中の昨年11月3日に毎年開催されている同窓会最大規模のイベントです。今号では、第19回ホームカミングデーで実行委員長を務め ブースを出展したチャレンジセンター「病院ボランティアプロジェクト」の学生・髙橋悠河さん、森岡成さんにインタビューしました！

Q 卒業生ではない地域の方が参加できるイベントはありますか？

基本的にはすべての催しにご参加いただけます。特に全学部の教育・研究活動や、チャレンジセンターの学生の活動を紹介する展示、家族で楽しめる縁日屋台やスタンプラリーなどを地域の方々にも楽しんでいただきました。今回は全日本大学駅伝の応援プロジェクトも行い、優勝の瞬間を皆さんとテレビ観戦できて大いに盛り上がりました。

同窓会員が世代と学部をこえて母校に集い、さまざまな催しを通じて親交を深めて刺激を与え合うとともに、母校の「いま」に理解を深めるイベントです。同窓生が企画・運営していますし、教職員や学生、地域の方々にもご参加いただけます。今回も1万3000名以上の来場がありました。

Q 地域とどのようにかかわっていきたいですか？

地域の方々からアドバイスや応援をいただき、大学が地域に寄り添いながら成長することを期待しています。「建学祭」とともに「東海大学同窓会ホームカミングデー」にもぜひ遊びに来てください。

病院ボランティアプロジェクトでは、小児病棟や、正しい医療の知識の普及を目的に活動しています。ほかにも子どもたちのために、地域の幼稚園や保育園、病院で絵本の読み聞かせ会などを行っています。

Q 当日は子どもたちに紙芝居を披露していましたが、出展してみてどうでしたか？

インフルエンザの予防接種の時期なので、注射をテーマにした紙芝居を読みました。最後までしっかり聞いてくれて、親御さんが子どもに「頑張って注射を受けようね」と声をかけているのが聞こえてきてうれしかったです。

Q 地域とどのようにかかわっていきたいですか？

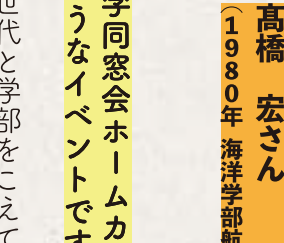
これからも地域の方々に正しい医療の知識を届け、病気からくる不安などを取り除いていきたいです。

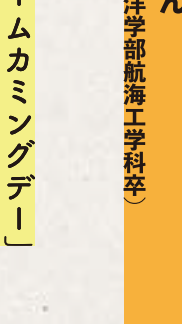
は、湘南キャンパスの建学祭
務めた髙橋宏さんと、会場で

第19回ホームカミングデー実行委員長
髙橋　宏さん
（1980年 海洋学部航海工学科卒）

Q 「東海大学同窓会ホームカミングデー」とはどのようなイベントですか？

同窓会員が世代と学部をこえて母校に集い、さ





チャレンジセンター病院ボランティアプロジェクト
髙橋　悠河さん（右）　工学部電気電子工学科2年
森岡　成さん（左）　文化社会学部心理・社会学科1年

Q 普段はどのような活動をしていますか？

病院に入院している患者さんのストレス緩和や、正しい医療の知識の普及を目的に活動して

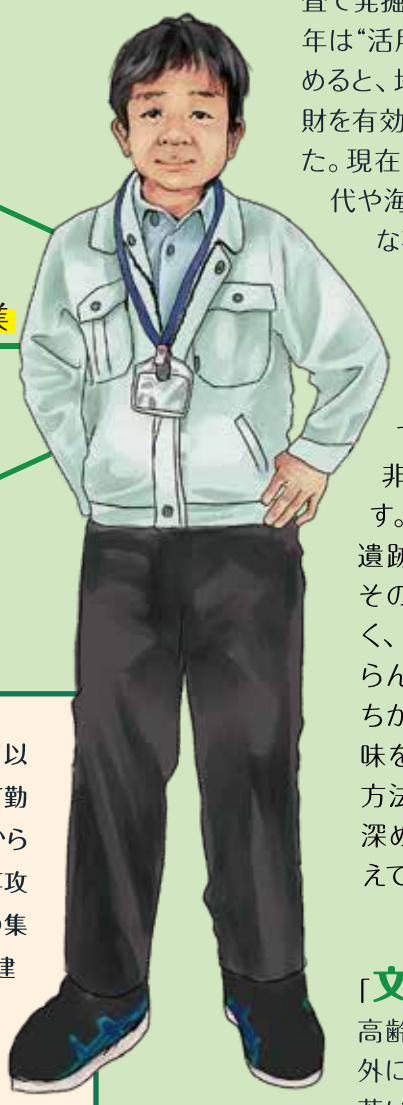
大学から地域へ
－教職員による地域貢献－

湘南キャンパス周辺で地域貢献活動に積極的に取り組む、東海大学の教職員・元教職員にスポットを当て“地域人”としての素顔をご紹介！

Close up!

“地域が職場”！
文化財でキャンパスと地域をつなぐ

伊勢原市教育委員会　教育部参事（兼）教育総務課
歴史文化担当課長　立花 実 さん



埼玉県出身、秦野市在住

東海大学
文学部史学科考古学専攻卒業

特にラグビー！

趣味はスポーツ観戦！

Profile

1988年伊勢原市役所に入庁以来、教育委員会の文化財担当として勤務する大ベテラン。2003年4月から東海大学文学部歴史学科考古学専攻の非常勤講師を務め、弥生時代の集落の分析や、出土遺物・遺溝（昔の建物やお墓）から見る弥生時代をテーマに、行政の観点を交えながら学生に教鞭をとる。行政、大学教員両方の立場で、遺跡に携わるプロフェッショナル。

立花さんは大学卒業後、伊勢原市役所に入庁して今年で32年。学生時代の経験を生かして、入庁から約10年間はほとんど自分のデスクにいなかったというほど、遺跡調査に励んだとのこと。地道な調査で発掘した品を“保存する”だけでなく、近年は“活用する”という視点が重要視され始めると、地域住民の目線に立ちながら文化財を有効活用する方針へシフトしていきました。現在は調査や保存のみならず、若い世代や海外に向けた情報発信などさまざまな事業に携わっています。

「地域が職場」と語る立花さん。週末は、母校である東海大学で文学部歴史学科考古学専攻の非常勤講師として教壇にも立ちます。授業では、一般の人も参加する遺跡見学会に学生たちを連れ出し、その度に「ただ遺跡を見るだけでなく、遺跡を見学する人々を観察してごらん」と伝えています。「地域の人たちが文化財を見て何を感じ、何に興味を持っているのかを理解し、活用方法にまで目を向けることで学びを深めてもらいたい」と、その真意を教えてくれました。

「文化財に興味を持つ人はまだまだ高齢層が多く、今後、その魅力を国内外にさらにアピールしていくためにも、若い世代に地域の文化財を知ってもらい、次世代へとつなげていきたい」と、熱い思いを語ってくださいました。「でも、やはり現場で調査をするのが好きなんです（笑）」とのこと。地域愛にあふれる立花さんの活躍に今後も期待です。

『神奈川県伊勢原市　日本遺産ガイドブック』
とても立派なガイドブック！
なんと無料で配布されています。

『大山阿夫利246・生乳茶菓』大山詣りの日本遺産認定を記念して発売された伊勢原の新銘菓（柏木牧場、茶加藤、ありあけの3社で共同開発）。売上の1%が市に寄付され、文化財の保護や広報活動のために使われる。カットした断面は大山のシルエットみたい！

東海大学湘南キャンパスでの講義風景
“文化財保護の課題と将来像”について

つかのはら通信

平塚市、秦野市、伊勢原市の３市（つか・の・はら）において
実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。

ひらつか

地域の応援が力に
ホームゲームを学生が企画運営

体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科の学生約50名が、昨年10月26、27日に湘南キャンパス総合体育館で開催された関東大学バスケットボールリーグ戦を、「SEAGULLS HOMEGAME2019～New Challenge～」と題して企画・運営した。11回目を迎えた今回は、２日間で3000名をこえる来場者が訪れた。会場となった総合体育館前には東京オリンピックの正式種目である３人制バスケ（３×３）のコートも用意。バスケ部の選手と地域の子どもたちがゲームを楽しんだほか、ハーフタイムを利用した観客参加型の企画など多数の催しが好評を博した。試合は、１日目の法政大学戦で84－57、２日目の筑波大学戦で72－50と、両日とも東海大が勝利を収めた。

「子ども大学ひらつか」に協力　科学の面白さを伝える

東海大学チャレンジセンター「サイエンスコミュニケーター」が、昨年11月９、10日に湘南キャンパスで開催された「子ども大学ひらつか」に協力した。平塚市民・大学交流事業の一環で、本学の教職員と学生が地域の小学生に科学の面白さを伝え、知的好奇心や感性を育てることを目的に開催している。２日間で市内在住の小学生57名と保護者が参加した。岡田工教授（現代教養センター）による「水と空気の楽しい実験」を実施したほか、サイエンスコミュニケーターの学生が「光の実験ショー～光り輝く実験工房～」で講師を務めた。

道路損傷などの通報が簡単に
道路通報システム「みちれぽ」のリーフレットが完成

情報理工学部情報科学科の内田理教授の研究グループが設計開発に協力した平塚市の道路通報システム「みちれぽ」の使い方を紹介するリーフレットが昨年11月１日に完成した。平塚市と東海大学の連携事業の一環。同システムはTwitterを活用し、GPSによる位置情報と状況写真を送信することで簡単に道路状況を通報することができるもので、3月１日から運用が開始されている。リーフレットは平塚市のホームページで公開しており、同市では道路の陥没やカーブミラーの破損などを発見した際は、通報するよう呼びかけている。
「みちれぽ」 https://michi-repo.jp

はだの

秦野の自然環境に触れてほしい
地元小学生を対象に特別講義

教養学部人間環境学科自然環境課程では、昨年10月21日に湘南キャンパスで、秦野市立大根小学校６年生の児童を対象にした特別講義を開いた。理科の教員を目指す学生を対象とした同課程の開講科目「教育総合演習」の一環として行ったもので、今回は学生６名が「草木染」と「シカ」をテーマに授業した。

「草木染」のクラスでは、ビワとトウカエデの葉を用いて白いハンカチを染めるワークショップを行い、「シカ」のクラスでは、秦野市の丹沢山地に生息するニホンジカをテーマに、骨と角、皮を用意して生態を解説した。学生たちは「今回の学びをきっかけに、秦野の自然環境について調べてみてほしい」と児童たちに語りかけた。

新しい技術やものつくりの魅力を紹介
「エコカー教室」開催

東海大学チャレンジセンター「ライトパワープロジェクト」のソーラーカーチームが昨年11月13日、秦野市立大根小学校の４年生約100名を対象に「エコカー教室」を開いた。最先端技術を集積したソーラーカーや電気自動車に直に触れることで、地球環境を支える電気や機械などの技術への理解を深めるとともに、ものつくりのおもしろさを実感してもらうことが目的。秦野市との提携事業の一環で毎年湘南キャンパスで開催している。当日は、電気自動車とソーラーカーの実機を紹介したほか、環境問題をクイズ形式で説明するなど特別講義を行った。児童からは「ソーラーカーを作るのには何カ月くらいかかりますか？」など多くの質問が寄せられた。

日本の伝統文化「書道体験会」を開催

湘南キャンパスにある留学生寮の国際会館で昨年11月16日、書道体験会を開催した。寮に滞在する各国からの留学生に、日本文化を体験し、留学生同士の交流を深めてもらおうと、同会館で留学生の生活サポート役を務めるレジデント・アドバイザーの日本人学生たちが、秦野市民による有志団体「留学生と交流会」の協力を得て企画運営した。

参加した留学生は、日本人学生から、筆の持ち方や「留め・はね・払い」といった書道の基本から、「桜」「東海」などの日本語を教わり、真剣な表情で半紙に向き合い書き上げた。「筆の扱い方が難しかったけれど、アートに近い感覚で面白かった。日本の伝統文化に触れることができて勉強になりました」といった声が聞かれた。

いせはら

子どもたちが医師体験「成瀬ふれあい祭り」

医学部と健康科学部の学生有志が昨年10月26日に、伊勢原市立成瀬小学校で開催された「成瀬ふれあい祭り」に参加した。地域の人々との交流や連携を目指し、2017年度から参加しているもの。3年目となる今回は、医学部医学科、健康科学部看護学科、同社会福祉学科の学生7名が医師の仕事を体験するブースを出展。多くの児童や保護者らが訪れ、膝蓋腱やアキレス腱の反射、聴診器による心音確認を体験した。また、心臓マッサージやAEDの重要性についても紹介し、人形を使った実習を指導。子どもたちは体の構造について質問しながら、真剣に心臓マッサージなどに取り組んでいた。

第43回「伊勢原祭」（建学祭）を開催

伊勢原キャンパスで昨年11月2、3日に、第43回「伊勢原祭」（建学祭）を開催した。学生と教職員、来場者が一体となって祭りを盛り上げようと、「Ohana」（ハワイ語で“家族”）をテーマに多彩なイベントを企画。展示企画では、美術部による絵画やイラストなどの作品展示、看護学科の学生による海外研修の成果発表などが行われた。学生会は、ヨーヨー釣りや輪投げで遊べる「縁日」を実施し、子どもたちから人気を集めた。また、医学部と健康科学部、体育学部の教員らで構成する「東海大学健康クラブ」は、フレイルの度合いをチェックするブースを出展。天候にも恵まれ、屋外ステージや屋台も盛況で、多くの家族連れや高校生でにぎわった。

「伊勢原市人権啓発講演会」で“前に進む力”をテーマに両角監督が講演

昨年12月5日に伊勢原市立中央公民館で開催された「伊勢原市人権啓発講演会」で、陸上競技部駅伝チームの両角速駅伝監督（体育学部准教授）が講師を務めた。同講演会は体罰や性的少数者への差別など人権問題が複雑化する中で、行政・市民がともに課題解決への道筋を探ろうと毎年開かれているもの。

両角監督は自身の選手時代やこれまでの指導実績などを紹介。「選手にさまざまなことを望む以上、指導者として私も実践する」と信頼関係を築く上で、小さなことでも自らを律する大切さなどを語った。また、昨年度総合優勝を果たした箱根駅伝のダイジェスト映像が上映され、最後には詰めかけた約250名の来場者から大きな拍手が送られた。

学生4コマ漫画　作・青田めい

I・MA・DO・KI “第11回” 広い

「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生をご紹介！　日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューします！
さて、今回ご登場いただく留学生は……？

International students'

✦げしゅくLife✦

留学生同士のコミュニティーで困難を乗り越える！夢は日本永住

チョウドハリー　アブドゥル　バサットさん ／Chaudhry abdul basit
（工学部機械工学科2年／出身：パキスタン・イスラム共和国）

パキスタン出身のバサットさんは、両親と弟の4人家族で日本に暮らしています。お父さんは仕事の関係で15年前に来日。先進的なロボット技術に興味のあったバサットさんも2年半前に来日しました。「イスラム教徒なので、来日したばかりのころはハラールフード（イスラム教の教えで食べてよいとされている食べ物）を探すのが大変でしたが、入学後は先輩にハラールフードのお店を教えてもらい助かりました」と話します。

昨年10月に湘南キャンパスで開催されたTOKAIグローカルフェスタ2019の「国際フェア」では、パキスタンのブースで歴史や文化などを来場者に紹介。「日本語はまだまだ」といいながらも、ブースでは楽しそうに会話をしていました。また「日本人の彼女に日本語を教わり、以前より上達しました！」と、すてきなエピソードも教えてくれました。

工学部での勉強は、難しい漢字が多く苦労しているとのこと。しかし、友達や先生に教わりながら取り組み、授業を履修していない日でも大学に来ては友達と一緒にリポートを作成するなど、勉学に打ち込む日々を送っています。

趣味はバドミントン。学内のサークルに所属し、毎週水曜日に体を動かしています。また旅行が好きで、車で7時間ほどかけて京都や大阪へ出かけたことも。京都では神社仏閣を巡り、大阪では道頓堀などで観光を楽しんだようです。

「今は勉強を頑張りたい。将来は日本の企業に就職して、日本で暮らしていきたい」と夢を語っています。

▲TOKAIグローカルフェスタ「国際フェア」のパキスタンブースで歴史や文化を紹介

▲友達と「グリコ」をバックに！（写真中央）

Vol.3 学びたいときが、まなびどき

生涯学習講座

東海大学地域連携センターの「生涯学習講座」を大解剖！
毎回ユニークな講座をピックアップしてその魅力に迫ります！

気象予報士によるお天気講座

初めての方も大歓迎

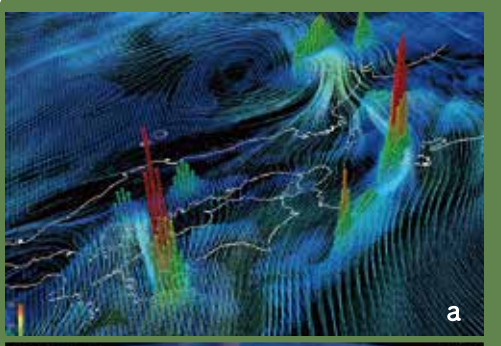
知っているようで知らないお天気の世界

講師：新井 直樹　教授
東海大学工学部航空宇宙学科
航空操縦学専攻／情報技術センター

私たちの生活に身近なお天気についての講座です。毎日、天気予報を見て考えることが、傘を持っていくか、持っていかないかだけになっていませんか？　最近はゲリラ豪雨や台風などの異常気象が多く、防災という側面からもお天気に関する知識は重要性を増しています。

この講座では、普段学ぶ機会が少ない気象学を通して、雨や風などの気象現象がなぜ起こるのかを学び、タイムリーな気象現象を参考にしながらお天気について考えていきます。

専門的な知識を増やして、明日の天気を予想してみましょう！



いつもの空も見方が変わるかも!?

a.『集中豪雨の風と雨のシミュレーション』
b.『東海大学から眺めた夜明けの空』撮影：新井直樹教授

こんな方が受講しています！

- お天気に興味のある方
- 写真撮影が趣味の方
- 登山が趣味の方

受講生のコメント

- 初心者でもわかりやすい説明でお天気への興味が深まりました。
- 図や表で「見る」学びが多く、わかりやすかったです。
- 先生がとにかく熱心で優しく教えてくれました。ありがとうございました！

お申し込み・お問い合わせ

詳しくは、地域連携センター生涯学習講座のホームページをご覧ください！
http://ext.tokai.ac.jp

Information

第17回医療セミナー
自分で決める健康寿命「フレイル」を知ろう。

健康と要介護のまんなか「フレイル」を知って、健康寿命を延ばしませんか？

日　時　2020年2月15日(土) 14:00～16:15
(開場13:30)

場　所　東海大学伊勢原校舎　1号館 講堂A
入場無料！　お気軽にお立ち寄りください！

主　催　東海大学チャレンジセンター・病院ボランティアプロジェクト

講　師　遠藤 慎也助教（東海大学健康学部健康マネジメント学科）

講師：遠藤 慎也

一緒に楽しくフレイルについて学びましょう！

専門分野
コンディショニング科学

研究テーマ
疲労回復・身体機能低下抑制のためのコンディショニング方法の探索など

病院ボランティアプロジェクト WEBサイト

詳しくは……
QRコードを読み取ってWEBサイトをチェック！

「2020年度前期 生涯学習講座」2月19日(水)～受付開始！

大好評の「生涯学習講座」の一般受付を2月19日(水)より開始します。
今回からは**WEB割**が始まります。WEBで**2月12日(水)**から先行でお申し込みが可能！さらに受講料が10%割引になるなどの特典があります(一部対象外の講座があります)。
詳しくはWEBサイトをご覧ください。

URL：https://ext.tokai.ac.jp

＼「TOKAIグローカルフェスタ2019」を開催しました／

昨年10月19日に東海大学湘南キャンパスで「TOKAIグローカルフェスタ2019」を開催しました。天候にも恵まれ、4500名をこえる参加者を迎えました。ご来場いただいた皆さま、関係者の皆さまにお礼申し上げます。当日の様子は、下記WEBサイト等に掲載しておりますので、ぜひご覧ください！

地域連携センターHP　https://coc.u-tokai.ac.jp
東海大学オフィシャルHP　https://www.u-tokai.ac.jp

「ちえん」設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館など約60カ所で配付中！

本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。

TEL：0463-50-2406
E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

WEB

東海大学のさまざまな地域連携活動の情報や、ちえんバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください！

WEBサイト

URL：https://coc.u-tokai.ac.jp

facebook

トコラボシスターズ：大学と地域をつなぐ3人娘(へび・いんこ・ひつじ)とマネージャー(ふくろう)が奮闘中！ Follow me！

トコラボシスターズ　検索

ご意見・ご感想をお聞かせください

地域連携紙「ちえん」についてのご意見・ご感想など、お気軽にご投稿ください。
詳しくは右記QRコードからアクセスし、WEBサイトをご覧ください。
東海大学地域連携センター地域連携課宛にメールでも随時受付中。

東海大学地域連携センター地域連携課
E-mail：chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

地域連携紙「ちえん」次号は4月発行の予定です。

東海大学
Think Ahead, Act for Humanity